

情報通信ネットワークの特性を踏まえて、安全に情報を活用する力を育てる技術・家庭科の指導の工夫

—「情報モラル導入教材」及び「実生活につながる学習」を取り入れた授業実践を通して—

特別研修員 技術・家庭科(技術分野) 濱 嘉孝(中学校教諭)

生徒の実態

情報モラルや情報セキュリティに関する意識や知識が乏しい

授業実践1

「情報セキュリティ技術を知ろう」

D情報に関する技術(1)イ 1年1学期

授業実践2

「情報を安全に利用しよう」

D情報に関する技術(1)ウ 1年2学期

手立て① 情報モラル導入教材を取り入れた活動

ユーザID、パスワードの流出による被害について話し合う

なりすましの被害に遭ってしまった原因は何だろう？



【情報モラル導入教材】
生徒の実態に即した提示資料

著作権侵害の事例について話し合う

なぜネット上に漫画の写真を投稿してはいけないのだろうか？



ネット上の情報は世界中に拡散してしまうから、著作者に経済的な損害が出るのだな。



知識の習得

手立て② 学習内容を実生活につなげる活動

見破れにくいパスワードを考える

英数字を組み合わせた、自分だけが知っている内容をもとにしたりして作るのいいのだな。



忘れにくく、見破れにくいパスワードとは？

【例】・tyds10i

(**たいやき** **だいすき** **10**個は **い**けます)

・tai10ha75kd

(**たいじゅうは** **75kg** です)



知識の活用

実生活における課題を考える

演習「情報モラルチェックシート」



【情報モラルチェックシート】
絵の中から、情報モラルに関する課題を見つける。

答え合わせをして、それぞれの課題について確認する。

演習「情報モラルチェックシート」



目指す生徒像

情報通信ネットワークの特性を踏まえて、安全に情報を活用できる生徒

成果

- 手立て1では、具体的な場面や事例を提示したことにより、生徒は、情報漏洩の危険性や、著作権侵害などについて深く考えることができた。また、グループでの話し合い活動を取り入れたことにより、幅広い視点で事例について考えることができた。
- 手立て2では、見破れにくいパスワードを考えたり、情報モラルチェックシートに取り組んだりすることで、学習内容を実生活の中で生かしていこうとする態度を養うことができた。

課題

- 情報モラル指導の時間が少ないため、生徒の主体的な活動を促す時間を十分確保することが難しい。説明の効率化、提示資料の充実、話し合い結果の共有方法等について検討する必要がある。
- 情報通信端末やSNSの急速な普及、情報通信ネットワークの複雑化など、現代の課題と生徒の実態に合致した教材を作成していくことが必要である。